

挑む!

近大水上競技部監督

山本 貴司さん(39)

## 人間味ある選手 五輪へ送り出す



大阪市住之江区出身。96年アトランタ五輪から3大会連続出場。08年北京五輪の代表を逃し、引退を決めた。近大職員などを経て監督に。

3年後の東京五輪へ——。2004年アテネ五輪の200メートルバタフライ銀メダリストは今、プールサイドで熱のこもった指導を続けている。

08年北京五輪代表を逃して現役を退いていった。「引退して、残るのは人間性。いかに水泳を通して自分を成長させられるか」を指導の軸に、学生の心の充実にも心を注いだ。プールサイドの排水溝にゴミがたまっていると感じれば、朝練で身が入っていないと感じれば、「時間の無駄やわ」と一蹴した。

4人の小学生の子を持つ父でもある。時に我が子よりも愛情を注いでいるのではと感じるほど、選手たちに寄り添い「チャレンジしてみよう」と語り続ける。昨夏のリオデジャネイロ・パラリンピックには近大から一ノ瀬メイ(現3年)が出場した。

常に心がけているのは「自然体」だ。現役時代、競泳の日本代表でムードメーカーだった親しみやすさで、やる気になっている後輩たちを導く。「2020年に向けて道は険しいけど、一歩ずつ前へ進む。人間味のある選手を育てたいですね」

文・増田啓佑 写真・植谷綾二

記者から

自然体にこちらが引き込まれるお兄さんキャラ。五輪選手の輩出、期待しています。